

お知らせ

INFORMATION

No.2020-14

2020年6月

病体生理研究所

新規受託開始および受託中止のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。併せて旧検査コードにつきましては受付中止とさせて頂きます。

何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

- ◆ 総ホモシステイン [16358] …検査実施施設 S
- ◆ 25-OHビタミンD [くる病] [16440] …検査実施施設 M
- ◆ α 1 アシドグリコプロテイン [16389] …検査実施施設 M

※項目情報裏面参照

《受託開始日》2020年7月1日（水）受付分より

【検査中止項目】

- ◆ 総ホモシステイン [15094] …検査案内 P.9 検査実施施設 S
新規項目受託開始による委託先検査中止のため
- ◆ 25-OH ビタミン D (25VD) [16804] …検査案内 P.16 検査実施施設 M
委託先検査中止のため
- ◆ α 1 酸性糖蛋白 [12282] …検査案内未掲載 委託先変更のため

《最終受付日》：2020年6月30日（火）受付分まで

一般財団法人東京保健会 病体生理研究所

〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町26-2 電話 03-3956-4101（代表）

【新規項目情報】

項目名称	総ホモシステイン
コード	16358
検体材料	EDTA-2Na 血漿 0.3 mL
保存・安定性	冷蔵 (21 日)
検査方法	LC/MS/MS
基準値 (単位)	M : 7.0~17.8 nmol/mL F : 5.3~15.2 nmol/mL
所要日数	4~7 日
実施料 (区分)	287 点 (D010 特殊分析 4 -イ)
判断料	生化学検査Ⅱ 144 点
備考	採血後、速やかに血漿分離してください。

ホモシステイン尿症の診断補助や動脈硬化性疾患に対するリスク予測マーカーに有用な検査です。

ホモシステインは、メチオニン代謝の中間代謝物として生成されるアミノ酸であり、総ホモシステインとは、タンパク質と結合している結合型ホモシステインとホモシステイン及び他の低分子チオール化合物と結合しているタンパク非結合型ホモシステインの合計をいいます。

先天性アミノ酸代謝異常症の一種であるホモシステイン尿症の診断には、血中メチオニン値や血中総ホモシステイン値などの特殊検査があります。また、血漿中ホモシステイン濃度が著しく高値のホモシステイン尿症患者において動脈硬化、血栓症病変を発症することが報告されて以降に冠動脈疾患、脳血管疾患患者においても健常者と比較し軽度ホモシステイン血症の頻度が高くなることが言われています。

血中総ホモシステイン濃度を測定することは、ホモシステイン尿症の診断補助や動脈硬化性疾患に対するリスク予測マーカーとして有用です。

参考文献：

Christian Hellmuth, et al : Journal of Chromatography B, 879 : 83~89, 2011. (検査方法参考文献)

橋本 隆男, 他 : YAKUGAKU ZASSHI 127 (10) : 1579~1592, 2007. (臨床的意義参考文献)

項目名称	25-OH ビタミン D [くる病]
コード	16440
検体材料	血清 0.5mL
保存方法	冷蔵
検査方法	ECLIA
基準値 (単位)	ビタミン D 欠乏 ・ 20ng/mL 以下 ・ 15ng/mL 以下であればより確実 ※1 ※2
所要日数	3~6 日
実施料 (区分)	117 点 (D007 30) ※3
判断料	生化学検査 I 144 点
備考	<p>※1: 日本小児内分泌学会の「ビタミン D 欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」に準拠しています。</p> <p>※2: 高用量のビオチンを投与・摂取している場合、偽高値になる可能性がありますので、投与後は 8 時間以上空けて採血してください。</p> <p>※3: ビタミン D 欠乏性くる病もしくはビタミン D 欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては 1 回を限度とし、その後は 3 月に 1 回を限度として算定できます。</p>

ビタミン D は食事摂取あるいは皮膚への紫外線照射により、体内に供給される脂溶性ビタミンです。

その大部分が肝臓において 25 位が水酸化されて 25-ヒドロキシビタミン D (25-OHD) に変換され、ビタミン D 結合蛋白と結合して安定的に血中を循環します。ビタミン D が欠乏すると、小児ではくる病や低カルシウム血症、成人では骨軟化症などを引き起こす原因となります。

25-OH ビタミン D は平成 28 年 8 月、ビタミン D 欠乏性くる病および骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合を対象に検体検査実施料が新規適用 (400 点) されました。その後、平成 30 年 9 月には骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択を目的として実施料が新規適用 (117 点) されました。

また、今年 4 月の診療報酬改正により、ビタミン D 欠乏性くる病および骨軟化症を対象とした検査につきまして、従来の 400 点から 117 点に実施料の改正が行われました。

この度、ビタミン D 欠乏性くる病および骨軟化症を対象とする検査として、25-OH ビタミン D [骨粗鬆症] と同一の試薬 (ECLIA) を用いた 25-OH ビタミン D [くる病] の検査受託を開始いたします。

参考文献: ビタミン D 欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き (日本小児内分泌学会)

URL: http://jspe.umin.jp/medical/files/_vitaminD.pdf

項目名称	$\alpha 1$ アシドグリコプロテイン
コード	16389
検体材料	血清0.3mL
保存・安定性	冷蔵
検査方法	TIA
基準値 (単位)	42~93 mg/dL
所要日数	3~7 日
実施料	未収載

$\alpha 1$ アシドグリコプロテインは急性相反応物質に属する糖蛋白です。半減期、急性期変動率が異なる CRP 等と同時測定し、炎症性疾患等の病態把握に用いられます。

参考文献：山下 順香, 他：医学と薬学 29, 1239, 1993.

以上